

私の子育て奮闘記 82

子どもたちが地域の魅力や課題を取材し写真雑誌を制作する「iPress(アイプレス)青年記者クラブ」が、この夏、伊東市八幡野のアレセイア英語学校を運営する渡辺真佐美さんにより発足、創刊号の制作を始めた。

主役は、人口減少などさまざまな問題に直面するであろう2030年から50年にかけて社会の中心を担う中高生。地域と連携した雑誌作りを通じて課題解決能力や自覚性、地元愛を育て、

国際的な視点を持つ若者を送り出したい」と語る。第一期メンバーは渡辺さんの生徒を中心に市内外から集まった11人。エドワード「ローズ」などのミドルネームを名乗り、夏休みの3日間、創刊号「伊豆発、地

わり、ボランティアとして子どもたちを支えた。録音、写真撮影、質問者や鹿の害について説明すると、子どもたちは真剣に聞き入った。「皆さんが何を将来は全く変わってくる。自覚を持ち行動

美奈子さんが、戦後植林された人工林の放置により荒廃した山がもたらす危険や鹿の害について説明する

雑誌作りで地域課題意識

解決能力や地元愛育てる

中高生記者が「私たち中高生に期待することはありませんか」

「私たちが中高生に期待することはありませんか」

さらに英語での発信力も培う。渡辺さんは「この取り組みで地域の未来を担う人材を育

球にやさしい森林と農業」の取材に挑んだ。協力者は市内の牧師・山口光仕さん、コンサルティング会社

炭を活用した環境再生型農業で育てられた菊芋の栽培から販売までの流れを追

と質問すると、淳一さんは「今後はデスクワークだけでなく、フィジカルな現場力が大事。人工知能(AI)にできないスキルを最低ひとつは身につけると同時に、AIを使いこなす力も必須」と語った。さらに「AIの台頭で職場が都会に縛られなくなると、地方にビジネスマンが流入する。第1次産業こそ受け皿になり得る」と説いた。



森林保護活動を行う菊田夫妻(左)の話に熱心に聞く子どもたち
＝天城高原サービスセンター

伊東市 子ども取材し発信

iPress (アイプレス) 青年記者クラブ



子どもたちの編集作業を見守る渡辺さん
＝伊東市の「アレセイア英語学校」

天城では、増えすぎた鹿の管理捕獲、鹿の加工品やバイオ炭作りにいそしみ、夫妻で森林保護活動をするNPO法人「天城の森フォレストーズ倶楽部」代表の菊田美奈子さんと「天城の森工房」代表の淳一さんを取材した。

取材を終えた中高生は、写真整理やAIを利用した文字起こしなどに取り組んだ。市外から参加した編集長の岡本瑠音さん(18)、小



バイオ炭で育てた菊芋を使ったジェラートを味わい、作り手に話を聞く＝伊豆高原ジェラート工房R65

室葉留さん(17)は「生の声を聞く貴重な体験。戦争が原因で増えた人工林が、今自分たちの環境に影響していると初めて知った」、伊東対島中3年の稲葉萌花さんは「質問が重ならないよつ工夫した。難しいテーマも多く必死で話を聞いた」、伊東南中1年の高田夏帆里さんは「森林保護のための鹿捕獲でも賛否があり難しい問題だと思った」と振り返った。

渡辺さんは「10代が伊豆を発信するメディア。大人

に付度(そんたく)せず自分の考えを伝えることが大事」と強調。「小さな活動だが、伊東の子どもたちが地域の課題に気づき未来を変える可能性がある」と期待する。

創刊号は年内に発行し、行政機関や地域各所に配布予定。交流サイト(SNS)やデジタル発信も行い、新たなメンバーを迎えながら年1、2回の発行を目指す。

問い合わせは事務局の渡辺さん(電090(9644)6480)へ。